

條、同役中等可被申談候事。

以上

三九 銀道具並銀簪等停止之儀觸

御家中之人々儉約、井衣類・音信・贈答・婚禮之式・饗應等、又は參會之料理等、暨婦人之衣類一切華美無之、櫛・かんざしに金銀を用ひ候儀、都而男女共無用之銀道具并銀に似寄候かんざし等可爲無用旨、寶曆五年十月具に被仰渡候通に候處、近き頃心得違之者も有之、相ゆるみ候躰に相聞、第一櫛・かんざしに金銀を用ひ候儀、猥相成候様子相聞候條、右被仰渡之趣彌堅く相守可申候。無用之銀道具并銀に似寄候かんざし等目立候品用ひ候者往來候はゞ、夫々承届候様役人共々申付、右櫛等之品商賣爲致申聞敷旨、町奉行等々尙更申渡候條、可有其心得候。

右之通被得其意、組・支配之人々々急度可被申渡候。

(寶曆二年)
十二月廿二日

長九郎左衛門

四〇 御城造營用人足差上候者

に喜悅之儀被仰出

に應差出可申事。

一、御扶持方・御切米被下候人々は、右百石之割合を以差出可申候事。

右之通に候。人々より日雇指出候ては不宜趣も可有之候間、御普請會所相雇候日雇、賃銀一人に付一匁一分充之圖を以、來年より七月・十月、御扶持方等之人々は三月・十一月兩度に、頭・支配人々取立、御普請會所差出可然与遂僉議候事。

以上

十二月

口 達

御城御造營被仰付候處、御勝手御難澁至極に付、御要脚必至与御差岡被成候。格別之御普請之儀故、ケ様之節御家來之人々より御借に相成候程差上可申儀に候得共、人々難澁之時節故心外之事に候。責て少々人足成共差出、御用に相立候様に致度、拙者共申談候。右之趣各にも被致承知、組・支配之人々々も差出候様可被申談候。委細別紙兩通之通候

御城御造營被仰付候處、御勝手御難澁、御要脚必至と御差支被成候に付、拙者共始御家中之面々申談、人足差上御用に相立候趣達御聽候處、當時人々勝手不如意、其内類焼之面々も有之候處、誠に志之至御喜悅被思召候。此段組・支配之人々々も可申聞旨被仰出候事。

(寶曆)
朱書。右同十二年三月廿一日諸頭々御用番前田駿河守殿被仰渡る。